kikusui

TECHNICAL DATA

仕上げの種類	防水形反応硬化形合成樹脂エマルション系 複層仕上塗材（防水形複層塗材ＲＥ）仕上げ
製品名	透湿弾性タイル・ＲＥ 凹凸状・凸部処理状模様（吹付け工法）

下塗材：　カチオン形アクリル樹脂エマルション系下塗材
（水系クリヤータイプ）
「キクスイ 浸透性プライマーＥ」

上塗材：　水系弾性アクリル樹脂塗料
「透湿弾性・ＲＥトップ」

第 9 版　　作成日：　2019 年 12 月 23 日

菊水化学工業株式会社

公 共 建 築 工 事 施 工 仕 様 書

1. 仕上げの種類

防水形反応硬化型合成樹脂エマルション系複層仕上塗材（防水形複層塗材ＲＥ）仕上げ

2. 製品名

透湿弾性タイル・ＲＥ(凹凸模様・凸部処理仕上げ)

上塗材 ： 水系弾性アクリル樹脂塗料「透湿弾性・ＲＥトップ」

3. 適用範囲

防水形反応硬化形合成樹脂エマルション系複層仕上塗材(以下､防水形複層塗材ＲＥという）による内外装の吹付けによる仕上げ工事に適用する。

4. 材料

下塗材：	キクスイ 浸透性プライマーＥ		NET	15kg/缶入
主　材：	透湿弾性タイル・ＲＥ ベース	〔主材〕	NET	18kg/缶入
		〔硬化剤〕	NET	0.15kg/缶入
主　材：	透湿弾性タイル・ＲＥ 模様	〔主材〕	NET	18kg/缶入
		〔硬化剤〕	NET	0.15kg/缶入
上塗材：	透湿弾性・ＲＥトップ		NET	16kg/缶入

5. 下地

5.1 適用する下地

適用する下地は、コンクリート・セメントモルタルとし、その他の下地に適用する場合は特記による。

5.2 下地処理

下地処理は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編)」平成 31 年版第 15 章 左官工事の 15.6.4 下地処理に準ずる。

5.3 下地調整

下地調整は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編)」平成 31 年版第 15 章 左官工事の 15.6.5 下地調整に準ずる。

6. 工程

工程		材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間 (h) (23°C 50%RH)	所要量 (kg/㎡)
下塗り(注)1		キクスイ 浸透性プライマーE 主材： 15 kg 無希釈	エアレススプレー ウールローラー等	1	3 以上	0.1 以上
増塗り		透湿弾性タイル･ＲＥ ベース 主材： 18 kg 硬化剤： 0.15 kg 清水： 0.3～0.8 L	はけ等	1	3 以上	0.9 以上
主材塗り	基層塗り	透湿弾性タイル･ＲＥ ベース 主材： 18 kg 硬化剤： 0.15 kg 清水： 0.3～0.8 L	リシンガン 口径：5～6 mm 吹圧：0.5～0.6MPa	2	16 以上 工程内 3 以上	1.7 以上
	模様塗り	透湿弾性タイル･ＲＥ 模様 主材： 18 kg 硬化剤： 0.15 kg 清水： 0～0.4 L	タイルガン 口径：6～8mm 吹圧：0.2～0.3MPa	1	18 以上 凸部処理 1 以内	0.9 以上
凸部処理(注)2		プラスチックローラーに塗料用シンナーをつけて均一に押える。			18 以上	－
上塗り		透湿弾性・ＲＥトップ 主材： 16 kg 清水： 0.8～1.6 L	エアレススプレー ウールローラー等	2	工程内 2 以上	0.25 以上

注１　押出成形セメント板下地の場合は、『キクスイ SP パワーシーラー』を使用する。

注２　凸部処理は、凸部処理状模様仕上げの場合のみ行う。

7. 工法

7.1 材料の練混ぜ

(1) 下塗材は､希釈せずハンドミキサーで均一にする。

(2) 主材は､主材と硬化剤を定められた比率で混合し、ハンドミキサーなどで均一にする。

その後、定められた模様に対する所定の粘度に調整するよう指定量の清水を加え、均一に薄める。

(3) 主材混練後の可使時間は、8時間(23℃)です。

(4) 上塗材は、指定量の清水を加え、ハンドミキサーで均一に薄める。

7.2 下塗り

(1) 下塗りは、だれ及び塗残しのないように均一に塗り付ける。

7.3 増塗り

(1) 増塗りは、出隅、入隅、目地部、開口部回り等にはけ又はローラーにより、端部に段差のないように塗り付ける。

7.4 主材塗り

(1) 基層塗りは、2 回塗りとし、だれ、ピンホール、塗残しのないよう下地を覆うように均一に塗り付ける。

(2) 模様塗りは、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、指定の施工条件により塗り付ける。

7.5 凸部処理

(1) 凸部処理は、見本と同様の模様になるように模様吹き後、１時間以内の適当なときを選んで行う。

7.6 上塗り

(1) 上塗りは、2回塗りとし、色むら、だれ、光沢むら等が生じないように均一に塗り付ける。

8. 材料の取り扱い

(1) 施工者は、材料の受入れ検査を行う。

(2) 材料の保管にあたっては、直射日光を避け低温時において凍結しないように注意する。

(3) 材料は使用に先立ち、材料の分離などについて検査を行い、異常が認められた場合は使用してはならない。

(4) 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はＳＤＳ（安全データシート）を参照のこと。

9. 施工時の養生

(1) 外装仕上げ面においては、塗り付け作業前に直射日光、風及び雨を防ぐためシート掛け養生を行う。特にパラペットと足場の間には雨が吹き込まないように覆いをかける。

(2) 夏季に屋外で施工する場合は、急激な乾燥を防止するため、シート類、ポリエチレンフィルムなどで覆う。

(3) 工事中は、周辺のほかの部材及び仕上げ面を汚損しないよう適切な養生を行う。

10. 施工時の気象条件

(1) 施工場所の気温が5℃以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生ずることがあるので、施工を避ける。

(2) 外部の施工で降雨、降雪の場合又はそのおそれのある場合及び強風時は施工を避ける。

11. その他の注意事項

(1) 一般事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」平成31年版第15章 左官工事の15.6.3 施工一般に準ずる。

(2) 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないように注意する。

(3) 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがある。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行うこと。

※本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにしてください。

成 分 表

下塗材：　キクスイ 浸透性プライマーＥ

内容	重量（%）
変性アクリル樹脂エマルション	100.0
計	100

主材[基層塗り]：　透湿弾性タイル・ＲＥ ベース

（主材）

内容	重量（%）
アクリルゴムエマルション	64.3
白色及び体質顔料	32.7
添加剤	3.0
計	100

（硬化剤）

内容	重量（%）
エポキシ樹脂	100.0
計	100

主材[模様塗り]：　透湿弾性タイル・ＲＥ 模様

（主材）

内容	重量（%）
アクリルゴムエマルション	63.7
白色及び体質顔料	32.3
添加剤	4.0
計	100

（硬化剤）

内容	重量（%）
エポキシ樹脂	100.0
計	100

上塗材：　透湿弾性・ＲＥトップ

内容	重量（%）
アクリル樹脂エマルション	61.2
白色顔料	16.9
水	9.1
添加剤	12.3
防藻・防カビ剤	0.5
着色顔料	適宜
計	100

性 能 試 験 成 績 書

仕上げの種類		防水形反応硬化型合成樹脂エマルション系複層仕上塗材 （防水形複層塗材ＲＥ）仕上げ	
製品名		透湿弾性タイル・ＲＥ	
供試材料		下塗材：キクスイ 浸透性プライマーＥ 主　材：透湿弾性タイル・ＲＥ　ベース 上塗材：透湿弾性・ＲＥ トップ	
試験方法		JIS A 6909－2014 防水形複層塗材ＲＥに準拠	
試験項目		規定	結果
低温安定性		塊がなく組成物の分離・凝集がない。	適合
初期乾燥による ひび割れ抵抗性		ひび割れがない。	適合
付着強さ N/mm²	標準状態	1.0 以上	2.3
	浸水後	0.7 以上	1.4
温冷繰返し		試験体の表面に，ひび割れ，剥がれ及び膨れがなく，かつ，著しい変色及び光沢低下がない。	適合
透水性 B 法　ml		0.5 以下	0.1
耐衝撃性		ひび割れ，剥がれ及び著しい変形がない。	適合
耐候性　A 法		ひび割れ及びはがれがなく，変色の程度がグレースケール 3 号以上とする。	適合
伸び	標準時	伸び率 120 %以上	250
	－10 ℃時	伸び率　20 %以上	67
	浸水後	伸び率 100 %以上	223
	加熱後	伸び率 100 %以上	178
伸び時の劣化		剥離，反り及びねじれがなく，主材に破断及びひび割れがない。	適合
耐候性　B 法 （耐候形　3 種）		照射時間 600 時間で，塗膜にひび割れ，剥がれ及び膨れがなく，光沢保持率は 80%以上で，変色の程度がグレースケール 3 号以上であり、白亜化の等級が 1 以下とする。	適合
透湿度　g/m² 24h		JIS Z 0208 に準拠	88

―以下余白―

＊上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではございません。あらかじめご了承下さい。